

和束町域における文化的景観調査

竹内祥一朗

1. はじめに

宇治茶の一大産地である和束町域においては、その茶畑の景観が平成 20 年（2008）に京都府景観資産第一号に登録されるなど、以前から調査や価値づけがなされてきた。そこで、本年度は、既往の調査成果を見直すとともに、現地調査を実施した。

2. 調査の概要

本年度 10 月 31 日に、現地調査を実施した。調査参加者は、上杉和央、小川大地、伊藤美梨子、奥谷慎也の 4 名である。和束町域のうち、撰原、原山、湯船、釜塚の 4 集落の茶畑および集落景観を重点的に踏査した。その際、茶畑や茶工場、民家、寺社、石造物などの文化的景観の構成要素となりうる文化遺産に着目し、その位置と状況を地図と写真によって記録した。

また、和束町域の文化的景観については、本学科による歴史・文化財に関する調査や、本学科上杉和央研究室による地域の生活・生業に関する調査、京都府立大学大場修研究室による民家建築に関する調査、京都大学山口敬太研究室による文化的景観を構成する要素に関する調査などがすでに実施されている。今回、こうした先行研究をとりまとめ、気候や地質、地形などの自然的な側面や、人口や行政区分などの要素といったこれまであまり取り上げられていなかった資料・データを集約し、さらに歴史史料に関する残存調査についても実施した。

次年度以降、国の重要文化的景観選定に向けた本格的な調査が開始されるという。今回の調査がその役に立てば幸いである。



写真 1 小盆地に形成された文化的景観
(2018 年 10 月 31 日奥谷慎也撮影)



写真 2 本願神社境内の祠
(2018 年 10 月 31 日奥谷慎也撮影)